

市民による 市民のための 新庁舎の建設



■旧市立病院跡地の特徴

- 敷地面積 約 13,877 平方メートル
- 敷地が広く、計画の自由度が高い。
(現本庁舎敷地の約 1.7 倍)
- 公共交通機関や車での利便性が高い。
- 市有地であるため早期の建設が可能。

新庁舎の建設候補地については、市議会の「鳥取市庁舎建設に関する調査特別委員会」及び有識者等による「鳥取市庁舎整備に関する検討委員会」の2つの委員会のこれまでの検討の結果として、災害対策拠点・市民サービス拠点として多様な機能を備えた新庁舎を建設するには、旧市立病院跡地が良いと方向づけられました。

こうした検討結果や市民のみなさんからいただいたご意見、さらには市議会6月定例会での論議を踏まえ、市として旧市立病院跡地(左図参照)を建設候補地として決定しました。

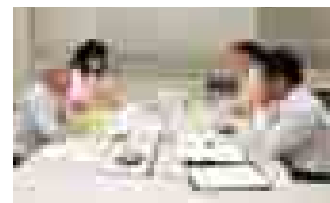
問い合わせ先

本庁舎庁舎整備局 ☎ 0857-20-3012 📠 0857-20-3040
✉ choshaseibi@city.tottori.lg.jp

具体的に検討していきます。市民ワークショップを6月から9月にかけて開催し、市民のみなさんの参画のもと、幅広い年齢層からのご意見を基本計画に反映します。また、10月、11月にかけて、基本計画(案)についての情報を提供し、パブリックコメントや地域説明会を実施します。

現在、新庁舎の機能や規模、概算事業費などを示す鳥取市新庁舎建設基本計画を策定中です。今年3月に決定した鳥取市新庁舎建設に関する基本方針を踏まえ、市民交流スペースやバリアフリー化、自然エネルギーの活用や情報発信拠点としてのあり方など、新庁舎に求められる機能をはじめ、市民のみなさんとともに

市民のみなさんと進める 新庁舎建設基本計画の策定



市の中心核としての再生を期待

駅前商店街としては、市役所新庁舎の建設位置は、訪れる人にとって交通の利便性が高く、商店街に近い鳥取駅北口エリアが望ましいと考えていました。しかし、市民サービスや防災等の総合的な観点から旧市立病院跡地を庁舎建設候補地とする決定がなされました。それは、市議会を始めとする議論の結果であり、尊重すべきと思います。今後は、新庁舎整備をきっかけとして、駅周辺・中心市街地の再生だけでなく、鳥取市全体の魅力アップにつながるようなまちづくりを実現していただきたいと思います。鳥取駅北側の商店街と南側の庁舎周辺が連結・連携した、魅力と活力あふれる鳥取市の中心核としての再生を期待します。

はなふさ よしと
新鳥取駅前地区商店街振興組合理事長 英 義人さん

Voice

寄せられた声を紹介します。

若い人の活力になるような新庁舎を

時代を見据えて行政業務にとどまらないで、県内外の方たちが出入りするような魅力的な庁舎を望んでいます。観光で他県庁を訪れた時、身近に感じ、活気あふれ、開かれた行政という印象を受けました。これからの時代は観光スポットになるようなシンボリックな要素も必要かと思います。観光に一石を投じるようなシアターの空間、最上階は見晴らし良くして観光客でも立ち寄れる癒しの空間、環境に配慮して自然エネルギーを取り入れ、危機管理機能の整備はもちろんのこと、高齢化に伴いバリアフリー化、福祉等のコーナーを設け試用することで自立へつなげる。新庁舎が経済効果を生み出すような情報発信の場になり、若い人の活力になるような構想を望んでいます。

しみず
新庁舎整備市民ワークショップメンバー 清水はるみさん

地元企業の力を結集した新庁舎づくり



新庁舎の建設は、地域の幅広い産業の活性化や雇用の確保に大きな効果があるものです。公共投資が先行き減少傾向にある中で、地元の設計業者や建設業者などにとって貴重な受注の機会になり、またこれを通じて、これからの時代に必要となる新しい技術を実際に施工する大変有益な機会を提供することになります。新庁舎の設計・施工等に当たっては最大限の地元発注を行う方針です。

本年6月には、地元建設業界から市役所庁舎の新築移転について地元発注の要望をいただいております。この事業に関して地元関係業界との意見交換の機会を設けるなど、基本計画策定の段階から積極的な地元発注に向けて必要な検討を進めます。

鳥取のこれからにふさわしい新庁舎を

私たち協会会員はこの地域で設計活動を行ってきた実績をもとに、鳥取市という地域に相応しい施設を提供することが「一市民」としても重要な責務だと認識しております。計画に当たり次の4つのコンセプトを提案したいと思います。

①シンボル庁舎—鳥取市の「安全と信頼」の拠点として、市民が安心と親しみの持てる庁舎②リーディング庁舎—鳥取市の行政の核として、まちづくりを先導する庁舎③エコロジー庁舎—環境技術の導入を図り、人と地球に優しい庁舎④アメニティ庁舎—働く人が快適で、訪れる人に心地よい配慮がなされた庁舎

以上の基本理念をもとに、人と自然に優しく、環境と調和し、快適で機能性に富み、安全で耐久性のある効率的な庁舎をめざすことが重要と考えます。

(社) 鳥取県建築士事務所協会東部支部長 しもむらまさひろ 霜村将博さん

Voice

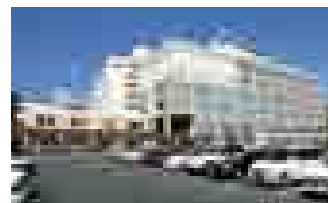
寄せられた声を紹介します。

地元業者の汗の結集による新庁舎を

災害対策拠点・市民サービス拠点として多様な機能を備えた「新庁舎移転新築事業」は、地域の幅広い産業の活性化や雇用の確保等に大きな効果があるものと期待されています。公共投資が先行き減少傾向にある中、地元の設計業者や建設業者にとって、貴重な受注の機会となり、竹内市長も「最大限の地元発注を行う」と我々地元建設業界の要望に応えるべく、温かい方針を示されました。基本計画策定の段階において開かれる地元関係業界との意見交換で、中層建物にする等我々の要望が取り入れられ、より多くの地元業者がJV方式で施工に参加でき、より多くの被雇用者の汗の結集により新庁舎が完成するとしたら嬉しいこととあります。

(社) 鳥取県建設業協会東部支部長 ふじわら ただし 藤原 正さん

現本庁舎の跡地とその周辺の総合的な活性化策



鳥取城跡周辺地域の特色を生かした地域の活性化を図るため、本庁舎と第二庁舎の跡地利用とその周辺の総合的な活性化策について、「現本庁舎周辺地域活性化検討委員会」で検討が進んでいます。歴史、文化、芸術、居住、福祉、防災などの観点を重視するとともに、にぎわいを生みだすための総合的な地域活性化の方針を今年中に取りまとめます。

これまでに、4回の委員会を開催し、中心市街地の現状や課題、今後の検討の進め方などについて議論を行なうとともに、中心市街地の現地調査も行ないました。また、委員会として、幅広く市民のご意見を求めるため、市民アンケートを実施します。

最大の効用をもたらす選択肢の案出を

「現本庁舎周辺地域活性化検討委員会」は、市役所本庁舎、第二庁舎の移転政策を踏まえ、跡地のあり方を技術的に検討し、政策決定のための選択肢を検討しています。注意すべきことに、技術的検討と政策決定の違いがあります。政策決定は多様な考え方を法制度に基づき一つ選択するのにに対し、技術的検討は政策決定のため複数の選択肢、材料を提供するに過ぎません。しかし、適切な政策決定には技術的検討は不可欠です。委員会は、鳥取市の城跡周辺、袋川以北の市街地のあり方のなかで本庁舎の敷地活用法を、多様な考えやコンセプトを踏まえ客観的に検討し、市域、中心市街地にとって最大の効用をもたらす選択肢を案出することを目的としています。

(財) とっとり地域連携・総合研究センターディレクター ちばゆうじ 千葉雄二さん

Voice

寄せられた声を紹介します。

委員会での議論が“かたち”となって

中心市街地に“活気があり、安心して暮らせる街にしたい”そんな思いからこの委員会に参加しました。中心市街地活性化は、「昔の賑わいを取り戻す」のではなく、「未来に向かって新しい街をつくる」という視点が必要ではないでしょうか。街に元気が出るには、「そこに行きたい」という気持ちがわき、人が動くことです。そこには、個性的で、魅力ある店が軒を連ね、芸術と文化の香りがし、一日中家族で楽しめる憩いの場所がある。また、安心して子育て、介護などができる環境があり、住民が強い絆で結ばれている、そんな街を作ることが必要です。この委員会での議論が、“かたち”となって賑わいのある街づくりの一端を担えばと思っています。

現本庁舎周辺地域活性化検討委員会委員 こだにくにこ 小谷邦子さん